

C-26 被服幾何学に関する基礎的研究 オ1報 系形曲線の表現とその特長
○東京工大 山口正隆,

目的 被服構成を体系的に理論と実際面から解析することはかなり盲夜の苦悶分野を必要とするばかりでなく、美的芸術的要素を含めると無限の可能性をもっている。

しかも風俗習慣環境気候などの要素を含めると、その用材材質構成機構その他多くの要素を同時に組込まねばならないのみならず、個々の人間(動物、物作?)の体格体質に応じて自由に実用的に適応させ得る総合的基礎知識をも必要とするであろう。

本研究では以上の一部すなわちわが国で実用化された日本人向けの幾何学的構成法の現状認識をもとに体形系形の関係と曲線の方程式を用いて一般化普遍化しようとするものである。

方法 被服構成における体形寸法は重要な要素であつても着用目的の種類によつては必ずしも決定的なものではなく、構成の難易デザイン外見上のバランスなどによつて系形曲線形状は異なつてしかるべきである。しかしながらこれらのもつとも基本となるべき系形については実用化現行方式について、はかかなり共通的要素があるべきと考えられる。そこで系形曲線形の可能範囲の形状を集め方程式化し定数との関係と整理した。

結果 系形曲線の方程式の定数は相互的に独立で無関係であるが系形形状の特長から一定の性格を示した。これを利用して逆に定数の性格から表現される形状特徴を把握することができた。